

**八潮市庁舎建設基本構想策定審議会委員委嘱書交付式
及び第1回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会 議事録**

開催日時	平成 29 年 6 月 6 日 (火) 午前 9 時 30 分から正午まで	開催場所	八潮メセナ 会議室 1・2
出席者 〔敬称略〕	(1号委員) 平石正美、山田あすか (2号委員) 上村義弘、大森真理子、籠倉正美、前田由美子 (3号委員) 内田亜希子、金内美智留、近藤晶作、齋藤勝、昼間竹雄、 古庄正登、三ヶ島幸生		
欠席者 〔敬称略〕	(1号委員) 作山康 (2号委員) 小倉恵美子	傍聴者数	3人
審議内容 及び審議 結果の概要	<p>【八潮市庁舎建設基本構想策定審議会委員委嘱書交付式】</p> <p>1 開式 2 委嘱書交付 3 市長あいさつ 4 閉式</p> <p>【第1回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会】</p> <p>1 開会 2 委員紹介 3 事務局職員紹介 4 会長・副会長選出 (選出後、あいさつ) ※会長に平石正美委員を選出 ※副会長に近藤晶作委員を選出 5 諮問 ※市長から会長へ諮問 6 会議の公開に関して ※公開としていくことで承認 ※議事録については、要約、委員の個人名は掲載しないことで承認 また、委員全員で確認し、会長が了承後公開することで承認 7 議事 今年度の取組概要 審議会設置の背景及び目的等について ※事務局説明 (1) 現状整理について (2) 基本理念及び基本方針 (案)、導入機能 (案) について (3) 新庁舎建設場所について (素案) ※ (1) ~ (3) 事務局説明、継続審議 (4) 市民アンケート調査の実施について (5) ワークショップ実施方針について ※ (4) (5) 事務局説明、見直して実施</p>		

	8 その他 9 閉会
提供資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・席次 ・資料1：八潮市庁舎建設基本構想策定審議会説明資料 ・資料2：「八潮市庁舎建設基本構想」策定に係る市民アンケート調査 ・参考資料：12 ページ 議題（2）基本理念及び基本方針（案）、導入機能（案）について 【ファイル】 ・No.1：委員名簿 ・No.2：八潮市庁舎建設基本構想策定審議会規則 ・No.3：八潮市附属機関の会議の公開に関する規則 ・No.4：八潮市庁舎建設基本構想策定審議会傍聴要領 ・No.5：市庁舎耐震化調査業務報告書（概要版） ・No.6：八潮市庁舎耐震化方針 【参考冊子】 ・第5次八潮市総合計画 ・八潮市都市計画マスタープラン ・八潮市公共施設マネジメント白書・八潮市公共施設マネジメント基本方針 ・八潮市公共施設マネジメント基本計画（公共施設等総合管理計画） ・八潮市シティセールスプラン

【議事詳細】

八潮市庁舎建設基本構想策定審議会委員委嘱書交付式

- 1 開式
- 2 委嘱書交付
- 3 市長あいさつ

市長	<p>市役所本庁舎は、昭和46年に建設され、築46年を迎えようとしている。</p> <p>市民の皆様が利用する公共施設の多くは、30年から40年以上が経過しており、設備等も含め老朽化が進んでいることから、市では「アセットマネジメント」による取組を進めているところである。これは、市の資産である「公共施設」を今後どのように管理していくのか。各施設の将来の需要を予測しながら、もっとも費用対効果の高い、安全安心で効率的な管理を推進していくための取組である。</p> <p>このような状況において、市役所本庁舎は、平成24年に耐震診断を実施したところ、耐震基準を満たしていない結果となったことから、どのように耐震化を図るべきか検討を行った。</p> <p>この検討により庁舎耐震化方針として「建替えにより耐震化を図ることとする」との結論を得たところである。</p> <p>本市では、「安全・安心」を基本の柱に据え、市民との「共生・協働」の理念に基づき、「住みやすさ ナンバー1のまち 八潮」を目指し、まちづくりを行っているところであり、市</p>
----	--

	<p>役所の庁舎はその拠点となる施設であると考えている。</p> <p>このことから庁舎建替は、市民目線で公共サービスの質を高め、「最小の経費で最大の効果を実現するため」の方策として、庁舎再整備事業をアセットマネジメントのリーディングプロジェクトに位置づけ、検討を進めていきたいと考えている。</p> <p>委員皆様には、庁舎建替にあたって、今後の公共サービスのあり方やそれに応じた公共施設のあり方などを踏まえた基本的な考え方について、基本構想としての取りまとめとして、ご審議をお願いしたい。</p>
--	--

4 閉式

第1回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 事務局職員紹介
- 4 会長・副会長選出（選出後、あいさつ）

※市長の指名により、会長に平石正美委員を選出

会長	<p>現在、公共政策や都市政策を専門としている。</p> <p>30代の頃には、旧自治省の研究所で様々なまちづくりや施設建設に携わってきた。阪神淡路大震災の際は、神戸市役所や兵庫県庁の調査に行き、その経験から、庁舎というのは重要な防災の拠点であり、まちづくりの拠点であることを実感した。</p> <p>また、庁舎は市のシンボルでもあり、市の過去の文化を引き継ぎ、現在の課題と向き合い、次世代へ受け継いでいく拠点でもある。</p> <p>委員の皆様とともに、よりよい基本構想を作っていきたい。</p>
----	---

※会長の指名により、副会長に近藤晶作委員を選出

副会長	<p>庁舎建設は、八潮市民にとっても、様々な面で大きな期待感をもち、注目される事業であるので、今後の審議会がスムーズに進行できるよう、平石会長とともに務めていきたい。</p>
-----	---

5 諮問

※市長から会長へ諮問

6 会議の公開に関して

※公開としていくことで承認

※議事録については、要約、委員の個人名は掲載しないことで承認

また、委員全員で確認し、会長が了承後公開することで承認

7 議事

今年度の取組概要 審議会設置の背景及び目的等について

事務局	資料に従い説明
委員	資料中に横文字が多いように感じるが、注釈をつける等の対応を検討いただきたい。
議長	このような資料の体裁は一般的となりつつあるが、一般的でない単語等については事務局に配慮いただきたい。
委員	本審議会については、諮問されたことについてのみ審議する場なのか。提示された案につ

	いてイエス・ノーの意見を表明することしかできないのか。
議長	案に対する可否のみならず、委員の皆様自身の意見を積極的に取り入れられる場にしたいと考えている。

(1) 現状整理について

事務局	資料に従い説明
委員	参考資料にて、12 ページの補足資料が用意されているが、草加市の事例では、市役所内での業務の際に不足するスペース等について詳細な現状分析がされている。ペーパーレス化することなどにより対応可能な部分も有るかと思うが、八潮市ではこのような観点での調査が不足しているのではないかと。
事務局	配布しているファイルの資料5「市庁舎耐震化調査業務報告書(概要版)」を確認いただきたい。平成26年度の耐震化調査の際に狭隘化等についても調査しており、その概要を配布している資料に記載している。市民活動スペースの不足や、執務スペースの狭隘、会議室の不足等の問題を洗い出している。平成26年度時点の調査結果を確認いただければと思う。
委員	スペースが不足していることは認識している。ただし、他自治体においては、必要以上に広大な庁舎を建てないように議論がなされているとの認識もある。人口減少等を踏まえると、今後必要な庁舎はミニマムなものが必要であると考えている。必要最小限なスペースについて具体的な検討がなされていないと、概念の議論に終始してしまうのではないかと。
議長	日本では今後急速な人口減少が見込まれている。また、働き方についても各業務のオートメーション化を含めて仕組が変わってくると考えられる。現在の働き方・考え方をベースとして新庁舎についての議論を進めると、指摘のとおり必要以上に大きなものができてしまう可能性がある。次世代につなげていくためには、どのような働き方に変わっていき、市民と集っていけるような庁舎はどうなっていくのか考える必要がある。また、防災等についても重要な役割があるので、考慮した上で、より詳細な検討結果を提示いただきたい。
委員	防災について、地震だけでなく、水害についても考慮すべきではないか。かつて八潮は甚大な水害に見舞われた歴史もある。また、春日部等他の自治体の事例が出ているが、草加市では現位置での建替えの際に近隣のビルに機能がちらばり効率が悪いように感じた。他自治体の建替えの現場を参考にさせていただきたい。
事務局	水害への対策については現状本構想内にて述べられていないが、市では地域防災計画を見直し中である。本構想において、新庁舎の位置はまだ定まっていないが、新庁舎は水害にも対応できるべきであると考えているため、地域防災計画内のハザードマップ等と整合性を図りながら、各災害への対策について検討を進めたい。また、建替えについては、ぜひ近隣自治体の事例を参考に、検討を進めたいと考えている。
委員	現在国では、ミサイルが飛んできた際の対応のガイドラインを発表するなどしており、それを踏まえると、天災だけでなく、人災についての検討もしていくべきかどうか考える必要がある。
議長	庁舎はシンボリックな建物であり、様々な検討の視点が必要なのだろうと考えている。新しい視点を提供いただき、感謝申し上げます。

(2) 基本理念及び基本方針（案）、導入機能（案）について

事務局	資料に従い説明
委員	2点ある。8ページについて、八潮市が目指すべき方向性を提示しているが、現在の内容では一般論にすぎないのではないか。八潮市ならではの方向性を提示すべきでないか。例えば、現位置での建替えを前提とするのならば、現位置ならではの項目が必要ではないか。同じように9ページの基本方針にも基本理念にある「共生・協働」の考え方を盛り込む必要があるのではないか。また、現在の市役所の位置は、ハザードマップで確認すると比較的安全な位置であると認識している。そうすると、市民の避難場所となることが想定される。例えば、庁舎内に高齢者や障がい者が日常的に利用する機能を設けることで、いざというときに庁舎が福祉避難所的な機能も担うことが可能になる、といった可能性もある。それを踏まえても、日常的に高齢者や障がい者も共に暮らす・過ごすという「共生・協働」の観点が重要である。災害時には市内インフラがもう一度機能を取り戻すための拠点としても機能してくれるのではないかと考えられる。2点目は、13ページの導入機能についてである。導入機能については、2つの考えた方があると認識している。指摘があったようにミニマムなものを目指すもの。もう1つは若干の余裕を持つことで、市民の日常の活動の場を充実させるもの。ミニマムでありつつ、余裕の部分も持つためには、共生・協働の理念を念頭に、市民と行政の部分をはっきり分けるのではなく、共有できるスペースを設けることが考えられ、今後の変化にも対応できるのではないかと思われる。
事務局	八潮市らしさ、という指摘についてだが、確かに指摘の通りだと認識した。他自治体の事例をみると「らしさ」が盛り込まれている事例もあり、今後本審議会にて助言をいただきたい。「共生・協働」を踏まえた庁舎のスペースの考え方についても、指摘いただいた点を踏まえて検討を進めたい。
委員	職務において必要なスペース、今年1年の来庁者数、職員・来庁者の動線等を踏まえて、必要なスペース等について、次回の審議会では資料を提示いただきたい。
事務局	補足させていただきたい。参考資料としている平成26年度調査にて、現庁舎の延べ床面積を記載しているが、8,700平米となっている。さらに今後の庁舎に必要な規模として、11,500平米が必要であろうと提示させていただいている。
議長	委員から指摘があったように、働き方の変革・ミニマム化・複合化等を前提とするとさらに数字は変動していくものと認識している。引き続きの検討をお願いしたい。

(3) 新庁舎建設場所について（素案）

事務局	資料に従い説明
議長	庁舎の場所に関しては、最適な場所がすぐに入手できるのか、入手にどれくらいの時間がかかるのか、といった点が重要になってくる。他に最適な場所がある場合には、どの程度の時間を要するものなのか教えていただけないか。
事務局	具体的な数字を申し上げることは難しいが、現在15,000平米の敷地面積となっており、それを踏まえると相当な期間が必要であると認識している。仮に最適な土地があるとすれば、

	地権者の方への交渉や補償等の資金確保も必要となり、大まかには、おそらく5年、10年という時間を要すると認識している。また、資金としては数十億の予算が必要であると認識している。
議長	新しい土地を確保する場合には、10年後以上から始まってくると考えられる。
委員	現位置での建替えの場合、仮庁舎の建築や、建築場所を消防跡地に想定すれば、現在の機能を維持しながら比較的早く建設が進むことが考えられるが、現位置は水害に弱い場所のように感じられる。全国では人口減少が見込まれているが、八潮市に目を向けると、北部では人口が減少しているものの、駅周辺ではつくばエクスプレスの影響もあり人口が増えている。これまでのように、市域全体について薄く広く資金を投入することが難しいと認識している。コンパクトなまちづくりが重要となってくる。耐震性が不足しているため、建替えは急務であると認識しているが、今後の街の様態の変遷に対応できる土地・施設であることが求められる。民間から買うのではなくて区画整理地内であれば、土地を早く確保できるのではないかと。現在駅が市の顔となっているが、今後顔となる庁舎についても、駅の近くに建てることを検討しても良いのではないかと。
事務局	今回の資料では、現位置の建替えと、みどりの広場等での建替えを提示しているが、それを前提とした議論を求めているわけではない。ただし、他の敷地を確保するためには相当程度の時間と、資金が必要であることをご理解いただきご審議いただきたい。次回には事務局から、より具体的に議論できる資料を用意したい。
議長	今回は初回の審議会であり、事務局が十分な議論・説明できる資料を用意できていないものと認識している。次回にはより具体的な資料を用意いただきたい。
委員	次回の審議会では、現在の職員が昼食をとっている場所についても調査いただき、現在の周辺商業施設への影響も考慮した資料を提示いただきたい。500人を超える規模の企業は、市内ではそう多くないと考えられるため、影響は大きいのではないかと。市役所が現位置から移動することによって、人口減少を加速させてしまうという視点も必要であると思う。
委員	今後の地域別の人口の推移に関する予測も、提示いただきたい。

(4) 市民アンケート調査の実施について

事務局	資料に従い説明
委員	問8について、本庁舎・別館への訪問回数を聞いているが、直近3年間や5年間と、期間を決めて聞いたほうが良いのではないかと。
委員	本アンケート調査は、事務局側の目的はどのようなものか。ニーズの掘り出しなのか、取組の広報なのか、一定程度の認識の共有なのか、どれに該当するものか。
事務局	それらすべての側面があると考えている。
委員	全体的に行政用語が多く、わかりづらさが目立つように感じる。また、文字数も多いように感じる。アンケートの配布自体による広報が目的ならばこれでも良いと思う。ニーズの掘り出しを目的とするのならば改善が必要である。例えば、最初の設問にて回答者の属性を聞いているが、本設問はアンケートの後半に設けたほうが、回答率が上がると考えられる。職業について○は一つでいいのか、問18 望む機能・問19 加えたい機能にて重複して

	いる部分もあるのではないかと、文言に統一性がないのではないかと等、改善した方が良い点が複数見受けられる。
委員	回収目標はどの程度を見込んでいるのか。第一印象として、「回答が面倒そうだな」と感じた。取り扱う内容から、ある程度硬いものになることは仕方ないものと考えているが、工夫ができないか。
委員	ワークショップはアンケートを受けてのものなのか。
事務局	アンケートを受けてのワークショップであると考えている。
委員	ワークショップでの議題についても、より突っ込んで設定する必要があるのではないかと。どのような目的を持って、開催するのか検討いただきたい。アンケートについては、今手直しすると時間的に厳しいものと認識しているが、再度検討いただきたい。
議長	アンケートについては、次の議題のワークショップとともに考えたほうがよいと思われる。

(5) ワークショップ実施方針について

事務局	資料に従い説明
議長	ここまでの指摘を踏まえると、アンケートとワークショップに関しては、審議内容の予定を後ろ倒しとした方が良くと思われるので、事務局と調整したい。
委員	ワークショップが一回のみの開催とするのであれば、発散型のワークショップとなると思う。その場で意見を出してもらい、それを受けて集約型＋意見収集のアンケートを実施するというやり方もあるのではないかと。場合によって、そのタイミングがパブリックコメントと一致していてもまったく問題ない。
議長	事務局と学識の方で、今後のスケジュールを含め、実施内容の案について再度相談し、委員の皆様にもう一度提案してから実施していきたい。

8 その他

事務局	次回の審議会の予定については、一旦7月14日の午前9時30分からとして設定させていただき、それに向けて検討を進めていきたいと考えている。正式には後日文章にて通知させていただきたい。
-----	--

9 閉会

(以上)